



SORAK Development Agency
Registered NGO: No:8726
UEB Zone, Church Road - Mulago, P.O. Box, 71883 Clock Tower - Kampala; Tel: +256 703615225
Mubende Office: Lusitira TIC, 16km from Mubende Town along Mubende - Fort portal Road



NPO法人グローバルブリッジネットワーク
Global Bridge Network

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

(ウガンダ共和国)

活動期間 2019年4月～12月

活動：パリス県の初等学校2校で、ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）を含む性教育を実施した。

日時と場所

	日時	場所
1	2019年10月21日	オデュサイ初等学校
2	2019年10月22日	オパドイ初等学校

はじめに

SORAK は Visionary Lady Foundation (VLF) と協力し、また Global Bridge Network から支援を受け、オデュサイとオパドイ初等学校 2 校で、ジェンダー啓発、性教育、そして生殖に関わる健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）に関するトレーニングを実施した。本活動は、青少年（8～13 歳）の生殖に関わる健康と権利を守る事を目的とした、若者主導型の社会的エンパワーメントプロジェクトである。本トレーニングを通して、生殖に関わる健康と権利について若者に周知し、彼らが権利を行使できるようにする。また若者が性暴力の被害者となる事を防ぐと同時に、若者があらゆる方法で自らの権利を主張・行使し、さらにはコミュニティの他の階層の人々も積極的に巻き込みながら行動できるようになる事を目指す。

パリス県の複数の学校で実施した本活動の目的は、青少年層の健康に寄与し、若者を暴力から守り、そして子どもの権利が保護された社会の中で若者が生きていく力を身に着ける事である。

トレーニング/活動の目的

性と生殖に関わる健康と権利、また性暴力の抑制について、正確な知識・技術・姿勢を身に付け、生徒達が有意義な人生を歩んでいけるようにする事。

具体的な目的

- 「健康教育に基づいたスキル」のコンセプトと、生徒主導型の健康教育方法論について理解を深める事。（「健康教育に基づいたスキル」とは、参加型の活動を主とする様々な学習体験を用いる事によって、知識、姿勢、とりわけスキルを身に付け、健康的な生活と心身状態をつくり、維持する方法。）

- 性暴力と、性と生殖に関わる健康（HIV/AIDSを含む）について正確な情報を得る事。
- 若者の健康教育について、自身の価値観や姿勢について話しあう事。
- 個人間やグループの中でのコミュニケーション能力を身に付ける事。
- 参加者がコミュニケーション力とアドボカシー（啓発）能力を身に付ける事で、暴力の被害にあってしまった友人や仲間に、救済策を考え医療サービスを探すなどのサポートができるようになる事。また、医療サービスについて政府の責任を問うなどの行動がとれるようになる事。
- 本活動の参加者が、コミュニティの人々を巻き込んで、性と生殖に関わる健康と権利に関するサービスについて啓発し、権利を行使できるよう能力開発をする事。

参加者

場所	男性/他	女性/他	合計
オデュサイ初等学校	120名	160名	281名
オパドイ初等学校	100名	200名	300名

ファシリテーター

1. Visionary Lady Foundation (VLF)のメンバー（3名）

- デイジー・アルテュン：チームリーダー
- オナピス・ティープン：ボランティア
- ニヤメラ・ベッティ：ボランティア

2. SORAK メンバー

- ムハンマド・ケユン：代表
- シャミン・ナルワンガ：プログラムオフィサー
- ビオラ・ナカレンベ：プロジェクトオフィサー/ボランティア

3. 保険従業員

- アケロ・アネット

活動

下記の通り活動を実施した。

性と生殖に関わる健康と権利のトレーニング

本トレーニングを通して参加者は、性病（膣カンジタなど）やHIV/AIDS、十代の妊娠、子どもの権利について学んだ。また、病気の原因、影響、予防方法についても詳しく勉強する事ができた。ここで取り扱う「権利」とは、法によって認められたもので、個人または集団が正当に主張できるものと定義づけた。

生殖に関する健康とは、単に病気を患っていない状態を指すのではなく、生殖器系に関わる全ての事柄、またその機能や生殖活動の過程についても、精神的・身体的・社会的に健康である状態の事を言う。

なぜ生殖に関する健康は大事なのか？

生殖に関する健康は、身体健康、経済的な人間の発展のために欠かせないものである。また、人生の様々な段階に応じて変化していく点に気を付けなければいけない。

思春期のセクシュアリティ（性）に関する間違った考え、態度、行動

参加者は、性と生殖の健康に関連する医療サービスとその政策やプログラムについて学び、各保健所に設置されている既存の若者向けの医療サービスを受信できることについて知った。また、思春期のセクシュアリティ（性）に関する間違った考え、態度、行動について話し合った。例えば、大きな胸を持つ女子は多くの男性と性交をしているという迷信のため、胸が大きな女子は胸が目立たないように布で押さえ、いつもセーターで隠そうと不自由な状況に置かれることが多い。

ファシリテーターは、「生殖に関する権利」と「性に関する権利」の違いについて、下記のような例を用いて説明した。

	性に関する権利	生殖に関する権利
1	感染、病気、望まない妊娠などが起こるのを恐れる事なく、性行為から快楽を得る権利。	最良な健康状態を維持する権利。
2	個人的・倫理的・社会的価値観に合った性的表現をする事。また性に関する選択をする権利。	生命と生存の権利。
3	性と生殖に関する医療サービス、情報、教育を与えられる権利。	自由で安全な状況で家族計画をできる権利。
4	自らの肉体に関する権利、およびいつ、どのように、誰と性行為を行うかを選択し、同意のもと性的関係を持つ権利。	健康、生殖に関する健康、家族計画に関する権利。

注: 今回のトレーニングに参加した生徒達は、性行為をするにはまだ若すぎるため控えるようにと教えられた。しかし、ディスカッション中ですでに性行為を行っている生徒もいると発言があったので、その場合は必ず避妊をする事を徹底した。

ライフスキル

本テーマでは、生徒たちが感情・ストレスをコントロールし、自尊心・自己主張・自己認識を含む自身の事を知り、ありのままの自分とうまく生きていくスキルを学んだ。このようなスキ

ルは、環境に適応して前向きに取り組む力が身に付き、日々の生活の中で生じる課題や要求に適切に対処していく事が可能になる。

テーマの目的

- 自分の行いの長所・短所を知る事。
- 自分の事を認めて、個性や才能を見出す事。
- 個人的な問題に直面した時にどのように対処するかを学ぶ事。
- 変えることのできない自身の事。例えば、身長・胸の大きさなどの身体的特徴など、ありのままの自分を受け入れる事。

思春期の若者・青少年がライフスキルを学ぶ利点

1. 立場の弱い子ども達が、自分の人生がより良くなるようコントロールできる。
2. 周りの思春期の青少年と若者たちに、前向きで健康的な行動を促すことができる。
3. 難しい状況に直面した時、前向き且つ効果的に対処する力を身に付ける事ができる。
4. ストレスを感じたり、精神的に落ち込んだ時に、問題にうまく向き合う事ができる。
5. 若者と周囲の大人の間関係を改善することができる。
6. 地域の若者/青少年が善良な市民になっていく事は、結果的には国全体の利点となる。

ライフスキルのカテゴリー

1. 自分の事を知り、生きていくためのスキル
 - 自尊心
 - 自己認識
 - 自己主張
 - 感情をコントロールする
 - ストレスとうまく付き合う
2. 他者のことを知り、生きていくためのスキル
 - 意思決定力
 - 交渉力
 - 効果的なコミュニケーション
 - 非暴力的な対立関係
 - 共感
 - 論理的思考
 - 問題解決
 - 仲間からのプレッシャー
(他と同じように行動しなければならない感情)
 - 友人との関係性
 - 創造的な物事の考え方
3. 意思決定のスキル

性と生殖に関わる権利と迷信

思春期とは、子どもが精神的、社会的に変化を遂げていく時期の事であり、子どもから大人への移行期間である。

思春期の青少年の特徴

- 強い性欲
- 異性に関わりたいと思うようになる
- 仲間からのプレッシャー
- 自立した気分になる
- 探求心が強くなる
- 夜に行動する事が多くなる

身体の変化

- 筋肉の発達
- お尻がふっくらする
- 声が大人っぽくなる
- 声が変わる/低い声になる
- 月経
- 性毛
- 体が丸みを帯びる
- 性器の発達
- ひげ
- 胸が膨らむ

精神的変化

- 感情の変化
- シャイになる
- 男子の胸が広がる

迷信

- 迷信とは、多くの人が信じている話。実際は事実とは異なる。
- 例えば、胸が大きい女子は多く性交をしているなど誤った認識。
- ストーリーの中に意味が隠されている場合もある。例えば、「箱の中で性交をすると、山の神が下りてきて膣内に唾を吐き子どもを産めないようにする」という言い伝えがある。

性と生殖に関わる健康に関する迷信の例

- 身長が低い女性は子どもを産めない。
- 勃起しているのに女性と性交をしないと、子どもが作れなくなる。
- たくさんの女性と関係を持つと、後にその男性が結婚する相手は、同じ数の男性と関係を持っている女性になる。
- お尻が大きいのは、性交をしているからである。
-

月経

体の変化と月経時の衛生管理

このテーマでは、成長に伴い生じる身体の変化と月経について、女子が適切に対処していける事が目的であり、月経とは何か、またどれくらいの年齢で女子は初潮を迎えるのかについても説明した。

参加者は、月経とは何か、月経周期にどう対処するかについて勉強した。月経の定義についてそれぞれ異なる見解を持っていたが、膣から毎月出血する生理現象という考えを持つ者が多かった。参加者からの質問で「不妊の女性にも月経があるのか？」という疑問があがったが、「月経の有無と不妊に直接の関係はない」とファシリテーターから回答した。

また生徒達は、月経の大切さと、月経時に使用して良いものと悪いものについて学んだ。

月経時の衛生管理をどのように行えばいいか？

- 生理周期を数えて、いつも準備を整えておく事。
- 必ず生理ナプキンや他の綿素材のものを使う事。
- 布ナプキンは天日干しする事。
- こまめにナプキンを交換する事。
- 特に月経時は塩分の摂りすぎに注意する事。
- 白湯や果汁を十分に飲む事。
- 暖かいお茶を飲む事。
- 布ナプキンを他の人と共有して使わない事。

月経時の使用に適している素材

- 脱脂綿とガーゼ
- 生理用ナプキン
- タオル

月経時に使用してはならない素材

- シルクの布
- 濡れた布
- ポリエチレンバッグ

性暴力

ジェンダーとは何か、ジェンダー規範、ジェンダー役割、男女平等、その原因、結果、予防、性暴力事件への対処方法、などのコンセプトについて定義づけをし、また生徒達が理解できるようにディスカッションを行った。

性暴力は「性（ジェンダー）」と「暴力」の二つの言葉で構成されている。「性（ジェンダー）」とは、性別に基づいて社会的・文化的に要求される役割の事である。「暴力」とは男性・女性に共に痛みを与えることを言う。

様々な暴力

- I. 性的暴力
- II. 身体的暴力
- III. 精神的暴力
- IV. 経済的暴力

性暴力が起こる原因

- 貧困
- 責任感のプレッシャー
- 教育格差
- 生活に最低限必要なものを家族に与える事ができない
- 強制結婚
- 夫婦間の経済的格差
- 信頼関係の欠如
- 人権に関する情報を得ること、また助けを求めることができない

性暴力の影響

- 家族の分裂/離婚
- 子どもの中退
- 死
- HIV/AIDS や性病
- 幼児婚
- 早すぎる妊娠
- 危険な中絶
- ストレス
- 経済的に自立できず、生活手段の喪失
- 逮捕
- 妊産婦の死亡
- 乳児死亡

性暴力に関する政府の取り組み

- 性暴力を犯罪として取り締まる。
- 犯罪者を罰し、被害者を助ける。
- 女性のエンパワーを高め、女性の社会的・経済的、また身体的支援をする。

青少年の問題

- 早すぎる妊娠
- 危険な中絶
- 伝統的な習慣による危害
- 薬物乱用
- 性病と HIV

- 子どもの養育ができない

青少年が可能な行動

- 政治的、財政的、経済的サポートの動員
- 敏感になる事
- 情報や選択肢を提供する事
- 性と生殖に関わる健康のサービスを利用する

ジェンダーと性暴力

ジェンダー	男性であるか女性であるかによって、社会的・文化的に求められる役割や行動の事。
ジェンダー役割	男性・女性として、期待される行動、また社会の中で果たすべき役割
ジェンダーステレオタイプ	男性と女性の能力について、過度に単純化されたもの、または偏った説明
性	男性と女性の生物学的特徴
男女平等	人生の様々な場面で、男女に平等に機会が与えられる事。
ジェンダー規範	男性・女性の社会的に容認されている行動と役割
力	性暴力は、社会的に作り上げられた男女間の力関係によって生じる。一方の性別（男性・男子）が他方（女性）より力があると認められる事によって起こり、男性が女性を力で支配する事。
支配	被害者を支配するためにあらゆる行動をとる。
権利	性暴力は、人権侵害にあたる。被害者の権利を侵害する。

家庭内暴力の原因

- 貧困
- 不信感
- 信頼関係が崩れる事
- 非識字率



オパドイ初等学校の校長が、性と生殖に関わる健康と権利・性暴力予防のトレーニングについて生徒に説明している。



オデュサイ初等学校の生徒達が、家庭で兄弟が性暴力の被害を受けた話を共有している。



オパドイ初等学校で集合写真



性と生殖に関わる健康と権利、性暴力の予防についてディスカッションしている



SORAK のプログラムマネージャーが、性と生殖に関わる健康を権利、性暴力の予防について教えている



男性教員が女子をサポートし、彼女たちが学校を卒業できる環境づくりをすることを男子生徒に強調している

主な課題

1. 生徒達に情報を共有するためのパフレット、メッセージの書かれたTシャツや教材が不足していた。
2. 複数の学校から参加者を一カ所に集めて研修を実施する事ができなかったのもので、それぞれの学校を訪問した。学校では想定外の多人数が参加し、全員熱心に学んだ。
3. アクセスが悪いので、学校への到着が困難だった。
4. 良い写真を撮影するカメラがなかった。

提案

1. それぞれの学校で、月経時の衛生管理クラブが設立されたので、これからは頻繁に学校を訪問して今回と同様の活動を展開していきたい。
2. 性と生殖に関わる健康と権利・性暴力の予防、に関する正確な情報を提供するため、学校のクラブに IEC (Information, education, and communication : 情報・教育・コミュニケーション) を与えていく。
3. “Speaking messages (伝えたいメッセージ)”を考えて、学校の敷地内や教室に掲示する。
4. 家庭内で性暴力の被害でトラウマを抱えている子ども達のケアができるように、教員に対するトレーニングを実施する。

Visionary Lady Foundation (VLF)からのフィードバック

大変多くの参加者が集まり、生徒達は学習に意欲的であったので、本活動は素晴らしいトレーニングとなった。特に、男子生徒が積極的に学ぶ姿勢を示し、例えば生理ナプキンの下着の付け方を実際に実演してみるなど、実践的に参加していた。一方で、女子生徒はまだ月経について話し合う事が恥ずかしいと感じていたのもので、今後は女子が自信を持って参加できるような方法を工夫して考えていきたい。

また、より多くのトレーニングの機会が必要である。今回、男子生徒も衛生管理クラブに入って女子生徒のサポートをする事に意欲的である事がわかったので、今後も、男子・女子全員を巻き込んで展開できる様々な活動を実施していきたい。

結論

本トレーニングは男子生徒・女子生徒に快く受け入れられ、また学校の校長はより多くのトレーニングをしてほしいと口にしていました。今回は参加人数の目標であった 500 名を達成し、また本活動に参加した生徒達は性と生殖に関わる健康と権利について知ることができ、適切に対処するスキルを身に付ける事ができた。